



Cleanup Living Bathroom

快適なだけでなく十分。家族にもっと愛されてもっと使われるスペースになろう。

これまでなかった使い方や楽しみ方、新しい可能性を持ち込めないか？

それが、クリナップの新提案:リビングバスルーム。

快適空間としての機能や使い勝手は当然揃えながら、

「いいね」や「サプライズ」が詰まった心まで満たせるバスルームが誕生します。

家族の心まで温めたいから、

リビング  バスルーム

2024.2 DEBUT

クリナップ株式会社



クリナップ株式会社

〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6-22-22



キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さまへ 第72期 中間報告書

2024年4月1日から 2024年9月30日まで

証券コード 7955

株主の皆さまへ



代表取締役会長
井上 強一



代表取締役
社長執行役員
竹内 宏

■ 企業理念

家族の笑顔を作ります

■ 行動理念

私たちは、心豊かな食・住文化を作ります

私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます

私たちは、自らの家族に誇れる企業を作ります

新設住宅着工戸数の低迷や
リフォーム需要の伸び悩みを背景に、
当上期の連結業績は減収減益

当社グループが属する住宅設備機器業界では、新設住宅着工戸数の低迷や水まわりのリフォーム需要の伸び悩みに加え、原材料/資材の価格や物流コストの高騰、人件費の増加などもあり、経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。こうした環境下、当上期の連結業績は、売上・利益ともに当初予想を下回るとともに、前年同期比で、売上高は微減(400万円減)ながら、営業利益は大幅な減益(63.8%減)となりました。こうした状況を受け、通期の連結業績見通しにつきまして当初予想を下方修正させていただきました(2024年10月31日公表)。売上高は前期比1.6%増の1,300億円、営業利

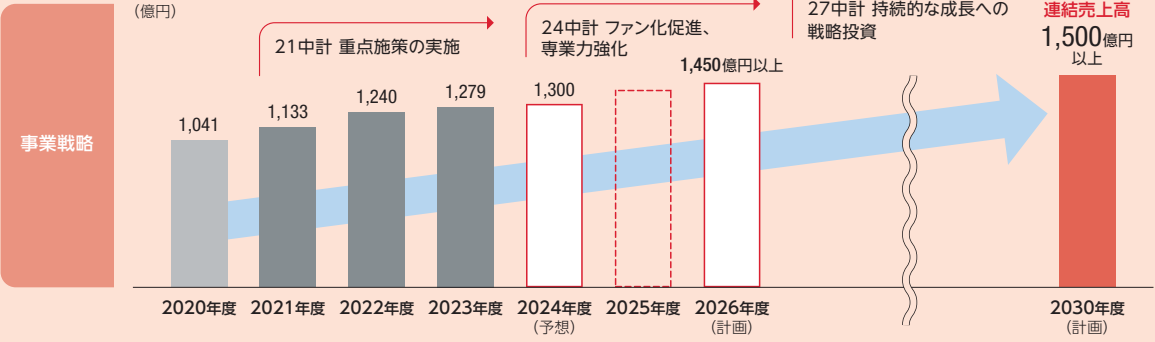
益は同22%減の10億円となる見通しです。下期についても厳しい状況が続くと予想されますが、当社グループは、主力の中高級価格帯システムキッチン「STEDIA(ステディア)」や2024年9月にモデルチェンジした普及価格帯システムキッチン「rakuera(ラクエラ)」などを中心にプロモーションの強化やショールーム活用による需要喚起に注力するとともに、引き続き原価低減やコスト削減にも努め、少しでも予想を上回る業績の達成を目指してまいります。

長期ビジョン実現に向けた第2ステップとなる
中期経営計画『24中計』初年度の経営がスタート

当社グループでは、長期ビジョン『クリナップ サステナブルビジョン2030』(CSV30)において「人と暮らしの未来を拓く」掲げ、システムキッチンのパイオニアとして、新たな食住

長期ビジョン

クリナップ サステナブルビジョン2030(CSV30) 戦略シナリオ大枠



企業価値の向上

空間の可能性を広げ、創造し、世界中のすべての家族から選ばれ続ける企業になることを目指しております。この実現に向けて、3次にわたる中期経営計画を推し進めており、2024年度より第2ステップの『24中計』がスタートを切りました。数値目標については、経営環境の悪化を受け残念ながら初年度の計画値を下方修正(前述の通り)することとなりましたが、中長期の目標達成に向け、各施策を着実に推し進めてまいります。『24中計』の3か年は、「ファン化促進」「専業力強化」を進め、企業価値の向上を目指してまいります。まだ緒に就いたばかりで施策展開の成果をご紹介することができる状況ではありませんが、モノづくりの現場から、お客様との接点、多様なコミュニケーション施策などまで、事業活動のあらゆる現場でそれぞれの課題をもって積極的な取り組みを推し進めております(当期のこれまでの取り組みはP3-5参照)。

成長戦略とサステナビリティ経営の両立に向けて…

私たちは今後、真に世界中のすべての家族から選ばれ続ける企業となるために、長期的な視点から、成長戦略とサステナブル経営を表裏一体で推し進めてまいります。事業環境は決して予断を許さない状況が続くことも懸念されますが、どのような状況下においてもサステナブル経営の手を緩めることはありません。2024年10月、クリナップは創業75周年を迎えました。長きにわたってご支援をいただいたすべてのステークホルダーの皆さまに心より感謝申し上げますとともに、改めて、「挑戦を支え合う」という当社独自の企業文化を基礎に、社員一丸となって未来の企業価値の創造に「挑戦」してまいります。株主の皆さまには、引き続きご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

特集: 創業75周年を迎えて

おかげさまで創業75周年 ～1949-2024～

おかげさまで当社は、2024年10月5日に創業75周年を迎えました。これを機に、新たなブランドムービーと、75年の歴史を振り返る記念年表を制作し、ホームページ等で公開しています。

また、お客様との大切な接点であるショールームでは、アドバイザーの制服を一新し、クリナップらしさが表現された新制服でお客様をお迎えしています。

創業75周年記念年表

創業から今年9月までの当社の歩みを冊子にまとめました。社会の出来事や時代を象徴した食住文化も一緒に紹介し、人々の暮らし方の変遷に寄り添いながら、業界をリードし続けた商品開発の歴史と、事業規模拡大に伴う組織の変遷を追うことができます。ぜひ、ご覧ください。



新・ブランドムービー

未来に向けた当社の想いとビジョンを2つのブランドムービーに込めてYouTube当社公式チャンネルにて10月3日より公開。



「心うごかす。人をうるおす。」篇

「水まわりから、新たな食住文化を創り続けていきたい」という当社の変わらぬ想いを情緒的に表現

YouTube
当社公式チャンネル



「CHANGE CHALLENGE CREATION」篇

社章のCに込めた「CHANGE・CHALLENGE・CREATION」の想いを、実際に働く社員の姿を通じて表現

YouTube
当社公式チャンネル



新・ショールームアドバイザー制服

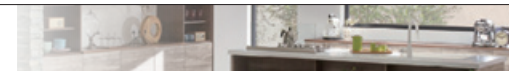
10月1日より新制服になりました。



コンセプト

- ステンレスイメージのグレーをベースに水の流れを連想させるクリナップレッドのラインを入れクリナップらしさを表現
- 働きやすさに重点を置き軽量ジャケットと、裾上げ不要のテーパードシルエットのパンツを採用

主なトピックス



商品関連

rakuera

普及価格帯システムキッチン

「rakuera」モデルチェンジ

「rakuera(ラクエラ)」をモデルチェンジし、9月2日から受注開始しました。「**キッチン**は家具、と考える。」のコンセプトはそのままに、お客様からのニーズに応え、引き出しの高さ設計を変更。さらに使いやすく、プランニングしやすくしました。



収納思想「ゾーンコンセプト」に則し、これまでの2枚割の扉を3枚割に変更。使用頻度が高いものを「ハンドエリア」「アイエリア」に、使用頻度が低くストックするものを足元の「フットエリア」に収納可能に

新提案の「カグタス収納」

周辺収納では、台輪の在り方を見直して創出したスペースを、カウンター直下に移し、新たな生活提案を搭載。収納量は減らずに、キッチン空間でのお困りごとを解決。

rakuera
ラクエラ

ショールーム関連

ショールーム

ショールームリニューアルを継続展開

持続的な魅力アップに向けて

顧客接点強化と交通利便性の向上を目的に「熊本ショールーム」を移転し、南区平成にて7月6日グランドオープンしました。

新・熊本ショールームのコンセプト

「家族の暮らしを変えるショールーム」

～理想の暮らしを実現するお手伝い。

ライフスタイルを体感・共感しながら決めるショールーム～



主なトピックス

食文化コミュニケーション関連

未来キッチン Project

「未来キッチン イラストコンテスト」 第2回を開催!!



昨年に続き「未来キッチンプロジェクト」の一環として、今年も第2回「未来キッチン イラストコンテスト」(主催:キッズ エクスプレス)の開催が決定しました。

本コンテストは、暮らしの真ん中に、そして子どもたちの身近にある「キッチン」から、未来やSDGsについて考えるきっかけを持ってもらいたいとの想いから生まれました。全国の小学生を対象に、自由な発想で未来のキッチンをイラストに描いて応募いただきます。(応募期間:2024年6月1日～10月15日)

第1回となる昨年度は全国から3,003作品が寄せられました。2回目の今年度は、最優秀賞、優秀賞、学校団体賞に加え、特別賞として「未来アイデア賞」、「ハートウォーム賞」を設けました。

料理教室

はばたけラボ主催 「夏休み親子料理教室」に協力

はばたけラボ主催「夏休み親子料理教室」に協力し、7月31日にキッチンタウン・東京を会場として提供しました。

今回は開催中であった「パリ2024オリンピック」にちなみ、“スポーツ好きの体をつくろう”と題し、アスリートフードマイスター(2級)の福島玲子氏を講師にお招きました。メニューは「バターチキンカレー」「トウモロコシの冷製スープ」「ミルクプリン」の3品で、体をつくるカルシウムやタンパク質など、栄養素にはどんな効果があり、どのような料理で効果的に摂取できるのかを学びながら、親子で調理しました。



福島先生の解説を熱心に聞く子どもたち

参加者

児童と保護者
9組18名

キッチン 白書

キッチンは“主婦の城”から“シェア化”？ 「キッチン白書2024」公開

今回は「キッチン空間に関する生活者調査」を行いました。前回調査(2017年)との比較から、キッチンは、「主婦の城」というイメージではなく、**自分も家族も使う、家族で「シェアする」空間**に変化しているようです。

例えば、キッチンで日常的に使用するアイテムを見ると、「スマートスピーカー」や「仕事用PC」、「フィットネスツール」など、調理に直接関係のないものが見られるようになってきました。



ESG経営／SDGsへの取り組み

ESG経営

持続可能な成長に向けた取り組み

「サステナビリティレポート2024」を公開

創業70周年を迎えた2019年度から、ESG経営の観点より当社の取り組みを紹介する「サステナビリティレポート」を公開しています。本レポートは、当社グループを取り巻く幅広いステークホルダーとのさらなる対話を目的に、クリナップグループのサステナビリティに関する考え方やESG・SDGsにかかわる取り組みを、環境(E)社会(S)ガバナンス(G)に沿ってお伝えしています。

この度のレポートでは、2023年度を到達年度とする「2021中期経営計画」の評価をはじめ、新たなサステナビリティ重要課題について、また、温室効果ガス(GHG)排出量削減の目標をより高い目標に改定して掲載しています。



ESG活動

環境ビジョン2050に準じた温室効果ガス排出量削減に向けて 岡山工場 太陽光発電運用開始

温室効果ガス排出量削減の一環として、再生可能エネルギーの使用を推進するため、西の生産拠点である岡山工場(岡山県勝田郡勝央町)に自家消費型太陽光発電パネルを設置しました。2024年4月より工場での使用電力に活用しています。

また、隣接する津山ショールームの駐車場にはソーラーカーポートを設置し、2024年4月から運用を開始しました。これによるCO₂排出量削減は、年間284tになる見込みです。今後、鹿島システム工場(福島県いわき市)では年内に、A重油による空調設備から、CO₂排出係数が低いLNG燃料の空調設備へ更新を行い、以降、年間279tのCO₂排出量削減を目指します。



岡山工場の太陽光発電パネル



津山ショールームのソーラーカーポートと充電ポート



クリナップグループにおける 温室効果ガス排出量削減の 取り組み状況

【2023年】

- 「クリナップグループ環境ビジョン2050(CEV50)」を策定
- 湯本工場への太陽光発電パネル設置、社用車へのEV車導入
- 中期目標である「2030年度温室効果ガス削減目標」が、SBTイニシアチブ[※]から認定

※ 気候変動対策の推進を目的として科学的根拠に基づいた温室効果ガス排出量削減目標を提唱し、2015年に設立した国際的な環境イニシアチブ



連結ハイライト情報／連結部門別情報

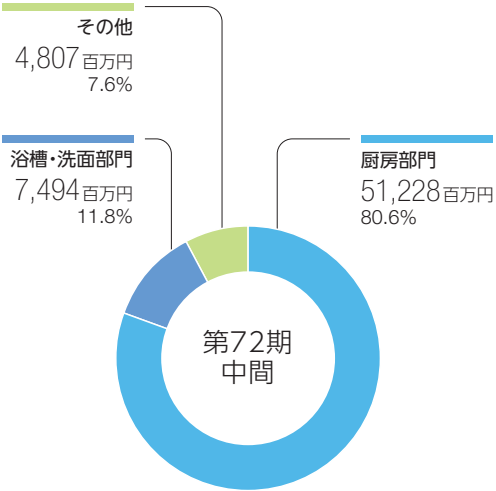
連結財務ハイライト

(百万円)

	第71期中間 2024年3月期中間	第71期 2024年3月期	第72期中間 2025年3月期中間
売上高	63,535	127,982	63,531
営業利益	1,047	1,282	379
経常利益	1,329	1,809	616
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	755	1,468	256
総資産	90,465	91,192	90,504
純資産	56,521	56,669	56,433

部門別売上高(連結)

(百万円)



	第71期中間 2024年3月期中間	第71期 2024年3月期	第72期中間 2025年3月期中間
厨房部門	51,982	105,152	51,228
浴槽・洗面部門	7,796	14,815	7,494
その他	3,757	8,013	4,807
合計	63,535	127,982	63,531

厨房部門の主な商品

高級クラスのシステムキッチン「CENTRO(セントロ)」、中高級クラスの「STEDIA(ステディア)」、普及クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中高級クラスのシステムバスルーム「アクリアバス／SELEVIA(セレヴィア)」、普及クラスの「ユアシス／rakuvia(ラクヴィア)」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。

第72期中間連結会計期間の営業概況

市場環境

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善するなど、緩やかな回復基調で推移しましたが、原材料やエネルギー価格をはじめとした諸物価の上昇、海外景気の下振れ懸念、地政学リスクへの警戒な

業績・成果

このような中、当社グループは、今年度スタートした新たな中計である「2024中期経営計画(2024-2026年度)」に則り、「ファン化促進」「専業力強化」を進め、企業価値の向上に努めてまいりました。

商品面では、高級価格帯システムキッチン「CENTRO(セントロ)」や中高級価格帯システムキッチン「STEDIA(ステディア)」を中心に、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。さらに、2024年9月には普及価格帯システムキッチン「rakuera(ラクエラ)」をモデルチェンジし、更なるシェア拡大を図りました。また、システムバスルームにおいては、2024年2月に新発売した「SELEVIA(セレヴィア)」及び「rakuvia(ラクヴィア)」の定着・拡販に注力しました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、2024年7月に熊本ショールームを移転し、オープンしました。さらに、「オンライン

ど、先行き不透明な状況が続きました。

住宅設備機器業界におきましては、住宅需要における持家の不振が継続する中、資材価格や物流コスト、人件費の高騰もあり、厳しい状況で推移しました。

相談)や「オンラインショールーム」などのWEBコンテンツの提供にも継続的に取り組んでまいりました。

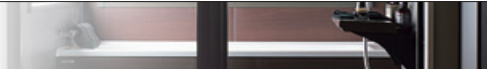
生産面では、東西の生産拠点での生産性向上、VE活動*を推進し、原価低減に努めてまいりました。

当中間連結会計期間の売上高を部門別にみますと、厨房部門は前年同期比1.5%減の512億28百万円、浴槽・洗面部門は前年同期比3.9%減の74億94百万円となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は、前年同期に比べ4百万円減の635億31百万円となりました。利益面では、原材料やエネルギーの価格高騰などの影響により売上原価が大幅に上昇し、販管費の増加もあり、営業利益は同63.8%減の3億79百万円、経常利益は同53.7%減の6億16百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は同66.1%減の2億56百万円となりました。

※VE活動: VE(Value Engineering)は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

連結財務諸表



連結貸借対照表の要旨

(百万円)

流動資産 流動資産は前期末比8億20百万円減少し、549億48百万円となりました。これは電子記録債権が12億17百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が3億54百万円減少した一方、現金及び預金が4億54百万円、商品及び製品が2億16百万円増加したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比1億33百万円増加し、355億56百万円となりました。これは無形固定資産が1億71百万円、投資その他の資産が1億56百万円増加した一方、有形固定資産が1億95百万円減少したことによります。

資産合計 総資産は前期末比6億87百万円減少し、905億4百万円となりました。

	第71期中間 2023年9月30日現在	第72期中間 2024年9月30日現在	第71期 2024年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	57,662	54,948	55,769
現金及び預金	19,672	18,534	18,080
受取手形、売掛金及び契約資産	16,079	15,088	15,443
電子記録債権	16,091	15,113	16,330
その他	5,819	6,210	5,913
固定資産	32,802	35,556	35,423
有形固定資産	20,738	21,536	21,731
建物及び構築物	6,850	7,260	7,194
その他	13,888	14,275	14,536
無形固定資産	4,669	5,660	5,488
投資その他の資産	7,394	8,359	8,203
投資有価証券	4,700	4,802	4,768
退職給付に係る資産	—	741	648
その他	2,810	2,931	2,901
貸倒引当金	△ 115	△ 116	△ 115
資産合計	90,465	90,504	91,192

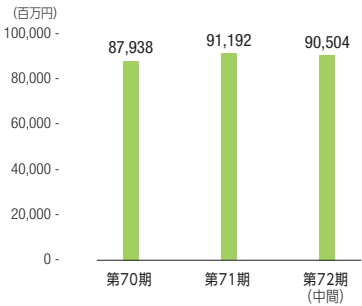
	第71期中間 2023年9月30日現在	第72期中間 2024年9月30日現在	第71期 2024年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	28,744	27,098	28,113
買掛金	7,475	7,446	7,576
電子記録債務	8,970	8,301	9,246
短期借入金	3,009	3,015	2,010
その他	9,289	8,335	9,280
固定負債	5,199	6,972	6,409
長期借入金	1,177	3,011	2,340
役員退職慰労引当金	416	402	416
その他	3,605	3,557	3,652
負債合計 (純資産の部)	33,943	34,070	34,523
株主資本	54,973	54,174	54,566
資本金	13,267	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351	12,351
利益剰余金	29,774	29,615	30,008
自己株式	△ 419	△ 1,060	△ 1,060
その他の包括利益累計額	1,547	2,259	2,102
その他有価証券評価差額金	1,905	2,085	2,064
為替換算調整勘定	199	328	197
退職給付に係る調整累計額	△ 556	△ 154	△ 159
純資産合計	56,521	56,433	56,669
負債純資産合計	90,465	90,504	91,192

流動負債 流動負債は前期末比10億15百万円減少し、270億98百万円となりました。これは電子記録債務が9億45百万円、未払金が9億3百万円減少した一方、短期借入金が10億5百万円増加したこと等によります。

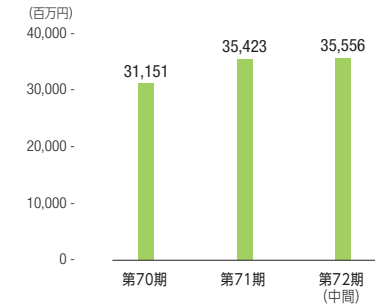
固定負債 固定負債は前期末比5億62百万円増加し、69億72百万円となりました。これは長期借入金が6億71百万円増加したこと等によります。

純資産合計 純資産合計は前期末比2億35百万円減少し、564億33百万円となりました。これは親会社株主に帰属する中間純利益が2億56百万円、配当金の支払が6億49百万円、為替換算調整勘定の増加が1億31百万円あったこと等によります。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の62.1%から62.4%になりました。

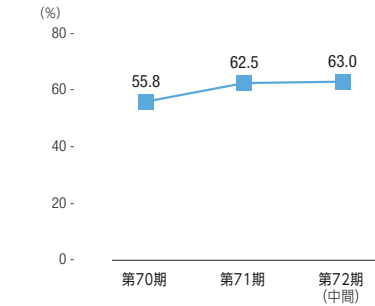
資産合計



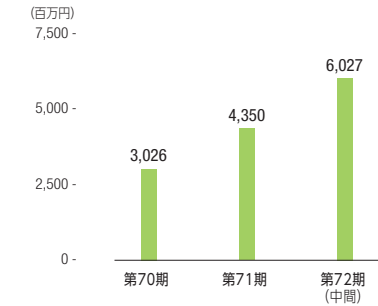
固定資産



固定比率

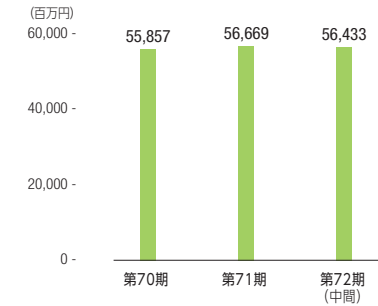


有利子負債

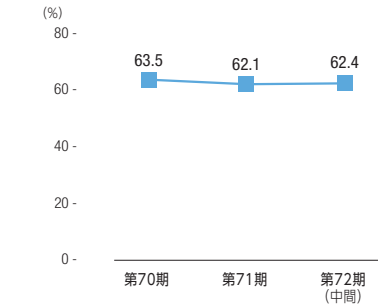


※有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計。

純資産合計



自己資本比率



連結財務諸表

売上高 高級価格帯システムキッチン「CENTRO(セントロ)」の販売数・販売価格がいずれも好調であったものの、売上高は前年同期に比べ4百万円減の635億31百万円となりました。

売上原価 原材料やエネルギーの価格高騰などの影響により、売上原価率が前年同期比0.8ポイント上昇し68.7%となりました。

販管費 人件費、一般管理費の増加により販管費は前年同期比1億92百万円増加しました。また、販管費率は同0.3ポイント上昇し30.7%となりました。

営業利益 原材料やエネルギーの価格高騰などの影響により売上原価が大幅に上昇し、営業利益は前年同期比63.8%減の3億79百万円となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益 親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比66.1%減の2億56百万円となりました。

■ 連結損益計算書及び連結包括利益計算書の要旨 (百万円)

	第71期中間 2023年4月 1日～ 2023年9月30日	第72期中間 2024年4月 1日～ 2024年9月30日	第71期 2023年4月 1日～ 2024年3月31日
(連結損益計算書)			
売上高	63,535	63,531	127,982
売上原価	43,161	43,631	88,046
売上総利益	20,374	19,899	39,935
販売費及び一般管理費	19,327	19,520	38,653
営業利益	1,047	379	1,282
営業外収益	327	297	611
営業外費用	44	60	83
経常利益	1,329	616	1,809
特別利益	—	2	534
特別損失	32	43	181
税金等調整前中間(当期)純利益	1,297	575	2,162
法人税等	542	319	694
中間(当期)純利益	755	256	1,468
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	755	256	1,468
(連結包括利益計算書)			
中間(当期)純利益	755	256	1,468
その他の包括利益	388	157	943
中間包括利益(包括利益)	1,143	413	2,411

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (百万円)

	第71期中間 2023年4月 1日～ 2023年9月30日	第72期中間 2024年4月 1日～ 2024年9月30日	第71期 2023年4月 1日～ 2024年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	17	2,119	2,433
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,458	△ 2,664	△ 5,358
財務活動によるキャッシュ・フロー	533	878	△ 572
現金及び現金同等物に係る換算差額	45	120	43
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,861	454	△ 3,453
現金及び現金同等物の期首残高	22,034	18,580	22,034
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	20,172	19,034	18,580

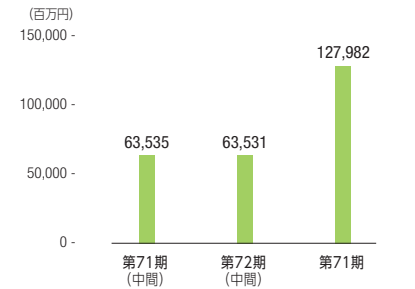
営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果得られた資金は21億19百万円(前年同期に比べ21億1百万円増)となりました。これは税金等調整前中間純利益が5億75百万円、減価償却費が25億68百万円、売上債権の減少が16億34百万円あった一方、棚卸資産の増加が4億78百万円、仕入債務の減少が10億77百万円、法人税等の支払が3億97百万円あったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は26億64百万円(前年同期比8.4%増)となりました。これは生産設備の改修、ショールーム移転・改装等により有形固定資産の取得による支出が16億71百万円、情報システム構築に伴う無形固定資産の取得による支出が9億86百万円あったこと等によるものです。

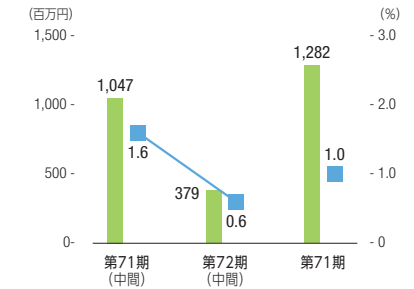
財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果得られた資金は8億78百万円(前年同期比64.6%増)となりました。これは長期借入れによる収入が30億円あった一方、長期借入金の返済による支出が13億23百万円、配当金の支払が6億49百万円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の中間期末残高
現金及び現金同等物の中間期末残高は前期末比4億54百万円(2.4%)増加し、190億34百万円となりました。

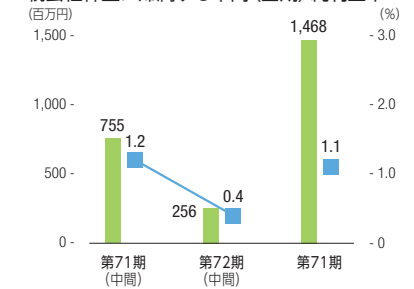
■ 売上高



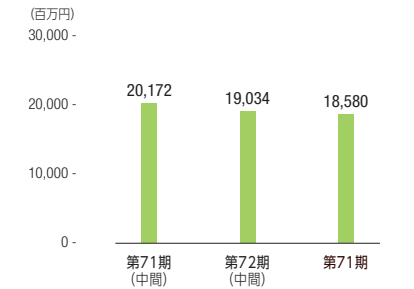
■ 営業利益・営業利益率



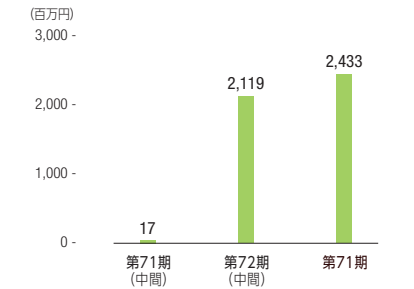
■ 親会社株主に帰属する中間(当期)純利益・親会社株主に帰属する中間(当期)純利益率



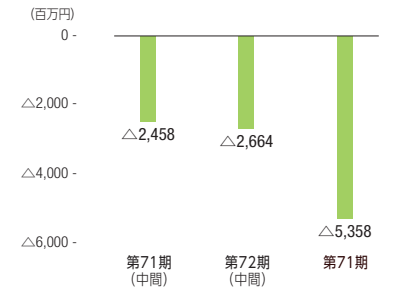
■ 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



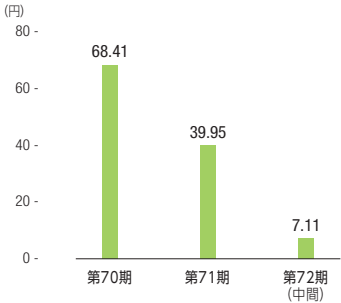
株式関連情報 (2024年9月30日現在)

剰余金の配当について

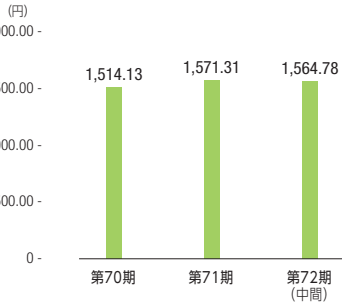
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つとして考えており、配当につきましては、長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益をあげ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

以上の方針に基づき、中間配当金は、1株当たり13円とさせていただきます。当期の年間配当金は、中間配当を含め1株当たり31円を予定しております。

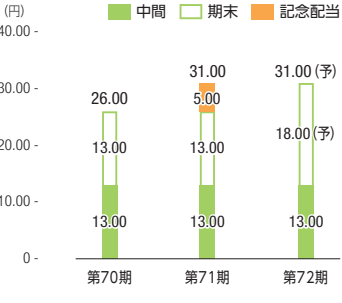
1株当たり純利益



1株当たり純資産

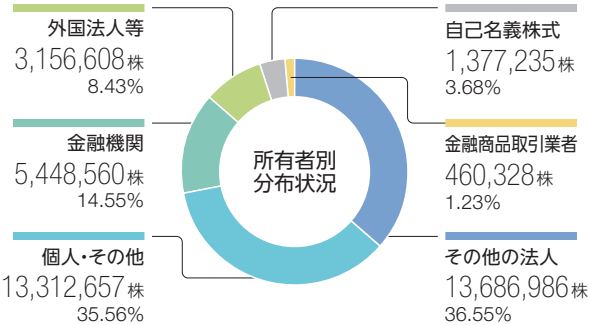


1株当たり配当金



株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000 株
発行済株式総数 37,442,374 株
株主数 11,927 名



大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社井上	8,609	23.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,392	6.6
クリナップ真栄会	2,370	6.5
クリナップ共進会	2,133	5.9
株式会社タカヤス	1,829	5.0
クリナップ社員持株会	1,746	4.8
株式会社三菱UFJ銀行	757	2.1
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	599	1.6
株式会社ミツウロコグループホールディングス	597	1.6
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	561	1.5

(注) 持株比率は、自己株式 (1,377,235 株) を控除して計算しております。

会社情報 (2024年9月30日現在) / 株主メモ



会社概要

商 号 クリナップ株式会社
Cleanup Corporation
本 社 所 在 地 〒116-8587
東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
創 業 1949年10月5日
会 社 設 立 1954年10月5日
上 場 東京証券取引所 プライム市場
(証券コード：7955)
資 本 金 132億6,734万円
主要営業品目 厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
社 員 数 連結：3,532名／単体：3,009名
主 な 事 業 所 支 社：国内3ヶ所
支 店：国内4ヶ所
営業所：国内131ヶ所 (出張所含む)
海 外：台湾、上海
工 場：四倉、鹿島システム、湯本、クレート、鹿島
(いずれも福島県いわき市)
岡山 (岡山県勝田郡勝央町)
津山 (岡山県津山市)

役員

代表取締役会長	井 上 強 一	常 勤 監 査 役	島 崎 憲 夫
代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員	竹 内 宏	常 勤 監 査 役	伊 藤 慶 一
取 締 役 専 務 執 行 役 員	山 田 雅 二	監 査 役	新 谷 謙 一 ※
取 締 役 専 務 執 行 役 員	川 田 和 弘	監 査 役	高 品 彰 ※
取 締 役 専 務 執 行 役 員	井 上 泰 延		
取 締 役	川 崎 享 ※		
取 締 役	千 代 田 有 子 ※		※は社外

株主メモ

事 業 年 度 4月1日～翌年3月31日
期 末 配 当 金 3月31日
受 領 株 主 確 定 日
中 間 配 当 金 9月30日
受 領 株 主 確 定 日
定 時 株 主 総 会 毎年6月
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所 プライム市場
公 告 方 法 電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
電子公告掲載 URL <https://cleanup.jp/>
単 元 株 式 数 100株

【株式に関する手続きについて】
■ 証券会社等の口座に記録された株式

株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等 (口座管理機関) にお問合せください。

■ 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

■ 未受領の配当金

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】
三菱UFJ信託銀行株式会社

【同連絡先】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電 話：0120-232-711 (通話料無料)
郵 送 先：〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部